平成28年度第２回津島市総合教育会議議事録

１　日　時　　平成29年２月９日（木）
　　午後３時00分から午後４時15分まで

２　場　所　　市役所３階　市長公室

３　出席者　　（構成員）市長、教育長、教育委員
　　（事務局）市長公室長、教育委員会事務局長、企画政策課長、
　　学校教育課長ほか担当職員１名

４　議　題　　（１）コミュニティスクールについて
　　（２）平成29年度予算について

５　内　容

〇開会

〇あいさつ

〇議題

（１）コミュニティスクールについて

（事務局）・津島市人口ビジョンに基づき説明。各小学校の生徒数は、どの学校においても減少傾向にあり、増加の見込みはない。

・子どもの減少のデメリットとしては、切磋琢磨の機会が減ってしまうことや、知識の伝承が困難になること。そういうことの中で、子どもは社会全体で育てていかなければならないと再認識した。

・文部科学省が平成28年１月に作成した「次世代の学校・地域創生プラン（通称：馳プラン）」の具体的施策の中で、地域と学校の連携・協働に向けた改革として、コミュニティスクール・地域学校協働活動の推進が必要であると明言している。（コミュニティスクールは学校運営協議会を設置している学校のことを指す。）

・平成28年４月１日現在全国で約2,800校がコミュニティスクールの指定を受けている。県内では２市の学校が指定を受けている。（一宮市、北名古屋市）

・コミュニティスクールの実態として、「学校と地域が情報を共有するようになった」、「地域が学校に協力的になった」、「特色ある学校づくりが進んだ」といった成果が得られたという調査結果が出ている。

・神守中学校では、学校支援地域本部が設置されており、様々な支援活動の仕組みができているため、ここをモデル校として、コミュニティスクールの指定が受けられるよう進めていく。平成29年度を１年目として、管理職の研修や家庭・地域への情報提供などを行い、コミュニティスクールがなぜ必要なのかを理解していただく。また、先進校への視察なども行っていく。

（教育長）　・神守中学校が学校支援地域本部を始めて６年目になる。この学校支援地域本部を全小中学校に整備するという方向で平成28年度はやってきて、各小中学校に本部長とコーディネーターができて、形としては、学校支援地域本部がすべて整ったということになった。

・この学校支援地域本部をもとにコミュニティスクールにもっていきたいというのが教育委員会の考えである。いきなりコミュニティスクールをつくるというのは難しいところがある。

・馳元文部科学大臣の話にもあったように、国としてもコミュニティスクールをもっと推進していくという意思が確認できている。市としても、第４次津島市総合計画の中に、「子どもたちの健やかな成長のために、学校のみならず家庭と地域との連携体制を充実させ、地域と一体となった学校教育の推進を図ります。」という記載や、教育に関する施策の大綱の中に、「家庭や地域、学校がそれぞれの役割と責任を果たしながら相互に連携を図り、社会総がかりで地域に根差した教育・学校づくりを推進します。」という記載があることから、国の考えと同じものだと考えている。

（奥村委員）　・昨年、川崎市の小学校に先進視察に行った。地域の方がいろんな行事に参加していて、あの都会の中であれだけ地域との連携がとれていることに感心した。

・地域と先生、生徒の距離が縮まることで、複雑な家庭環境や親が共働きというような中で、親の目が行き届かないところを別の大人の目で見守って、いじめや非行の防止に繋がればよいということを感じた。

（川村委員）　・親として、また、ＰＴＡの代表としてあんないいことをなぜ神守中学校だけなんだろう、市内すべての学校でやればいいのにという思いがある。

・津島市が子どもたちにとって住みやすい街かというと素直に「はい」と言い切れない部分がある。人口減少の話があったが、名古屋から30分という立地条件なので、子育てがしやすい街になれば、子育て世代の家族が入ってきて、人口にも影響するのではと思う。

（猪飼委員）　・時代が変わっていく中で、昔の仕組みでははかれなくなってきているというのが根底にある。以前であれば、地域は地域、学校は学校で考えていればよかったものが、地域のあり方、学校のあり方を別々に考えるには無理がある。その解決のために何かの仕組みを作る上でということからすると素晴らしい取組なのではと思う。

・例えば、災害が起こった時に、学校というのはひとつの拠点になる重要なものなので、そういった点からも学校と地域のあり方というのは普段からいい関係をもって動いていくことが大切だと思うので、このことはスピード感をもって、かつ、本来の役割・目的をアピールしながら組織として成り立つよう要望する。

（小出委員）　・元教師として、特に思うことは、子どもの数が少なくなる、あるいは、近所の人の数が少なくなってくると、人との交流の機会が減ってくる。人との交流が人の生きる力となると聞いたことがある。教育者は、子どもたちに生きる力を作らなくてはならないということを考えると、今のままでは、子どもたちが減って、周りの人が減っていったら、色んな人と交流することで自分の生きる道を見つけられる機会が減ってしまう。

・じゃあその対策をどうするかということで、こういう組織を作って、地域の人を引っ張り出し、子どもたちと交流させる。地域の人もそこで交流できる。そうすると子どもたちだけではな

く、地域の人々も一緒になってやれてよかったという喜びができる。こういうことができるのがこの組織のひとつの得手ではないかと考える。

・今までは、学校だけで、地域だけで、解決しようとしていたことが、地域全体で取り組んで全体の喜びに繋がっていけばいいと思う。

（市　長）　・私自身も昔、ＰＴＡに関わったことがあって、地域と一体にということが厳しかった部分もあったが、神守の豆ボラさんがこういう形でやってみえて、これが学校運営協議会ができることによって、さらに地域が顔の見える関係になって、地域に根差した活動になっていくことになれば、素晴らしいことではないかと思っている。

・私もみなさんの意見と同じだと思っているので、地域でまとまりをもって、スピード感をもって進めていきますのでよろしくお願いしたい。

（２）平成29年度予算について

（事務局）　・平成29年度の予算についての概要を説明。

（猪飼委員）　・学校を訪問すると、色んな要望を聞く。財政的に厳しいことは分かっているが、現場からの声を予算に反映してもらえるようにお願いしたい。

（川村委員）　・同感である。現場の切実な思いを汲んでいただけるとありがたい。

（奥村委員）　・トイレにせよ、空調にせよ、色々と財政が厳しいところ大変だと思うが、ぜひ、子どもたちのために少しでも整備していただければと思う。

（小出委員）　・現場の気持ちを汲んでいただいて予算にそれを活かしていただけると学校がなお活性化してくるのではないかなと思いながらも事情は理解している。

（教育長）　・市の財政状況については、重々承知している。教育というのは将来への先行投資ですので、すぐに成果が現れないものへの予算が多いと思う。やはり、津島市の将来のことを考えると、教育の方に予算を割いていただいて、少しでもいい環境で子どもたちを育ててあげたいなと思う。そういう気持ちは教育委員の

皆さんも持っているし、教育委員会の職員も持っている。市長においては、教育委員会の要望ばかりを聞いていただくというのも難しいと思うが、ぜひとも将来への投資というところに重きを置いていただいて目を開いていただけるとありがたいと思う。

（市　長）　・学校が開かれた、真に地域の拠点になるということになれば、全く違う予算の入れ方も可能ではないかと思っている。学校がもっと開かれて、色んな面で地域を取り込む。その中で、防災などを取り込めるものを取り込む。そういうことになれば、それに関する予算も当然持ってこられるので、そこでひとつ整備ができることになる。

・子どもの体力向上ということで、体づくりの基礎にもなる給食にも力を入れ、病気にも負けないような強い子どもを育てていきたい。

〇その他

（事務局）　・次回の津島市総合会議の開催については、決定次第連絡する。

〇閉会